

第1回京都陸協記録会

開催日:平成26年4月6日(日)

場所:西京極陸上競技場

種目	名前	学年	記録	着順	備考
1500m	床呂 沙紀	2年	4分46秒78	2組1着 (11名中)	
	竹山 楓菜	1年	4分50秒03	3組3着 (13名中)	自己記録 4分52秒76 を更新
	越水 香菜美	1年	4分54秒03	3組4着 (13名中)	
	港 菜月	2年	4分55秒19	2組3着 (11名中)	
	水元 みのり	1年	4分59秒48	2組8着 (11名中)	
	渡部 貴江	1年	5分02秒23	2組9着 (11名中)	
	尾崎 可南子	2年	5分08秒61	4組3着 (13名中)	
	角田 凧彩	1年	5分10秒79	2組10着 (11名中)	
	山田 郁香	2年	5分16秒95	4組11着 (13名中)	

【山本コメント】

平成26年度シーズンの初レースとして、新入部員5名を合わせた9名全員が出場した。調子がまだ上がってきていない者、脚の状態に不安がある者などもいたが、9名全員が出場できたことは、まず良しとしたい。途中小雨が降り、4月にしてはかなり肌寒い気候が影響したのか、記録会全体的として記録はやや低調であった。

9名全員が女子1500mに出場した。全部で6組、持ちタイムの速い選手の組から始まり、床呂は2組目のトップでゴールした。3月下旬に脚に痛みが出てから練習を控えめにしていたが、無事にゴールできたのは何よりだった。3組目では、竹山が積極的に集団の前の方でレースを進め、自己記録を約2秒更新した。1500mは自身2レース目と経験が浅く、自身にとっての長い距離に対して、まだ本来のスピードをかなり抑えながら走っている状況である。今回は途中順位を落としながらラスト1周でもう一度立て直したことに、長距離競技への適性を感じた。有酸素能力を高めるトレーニングを徐々に増やし、800mのスピードを活かした1500mのレースができるよう、またそれが駅伝レースにつながっていくよう、目指してほしい。

その他、練習状況がまだまだ不足している選手、体調を崩した上で出場していた選手など、全体としては準備がまだまだ不足している。それでも、シーズンの早い段階でまず1本レースを走ったことで確認したことを、これからの春シーズンのトラックレースに活かしてほしい。次に向けて頑張る、という明るい決意が聞こえたのはよかった。春シーズンのトラックレースへの各自の取り組みが、チーム全体として秋の駅伝シーズンにつながっていくように、全員で士気を高めていってほしい。